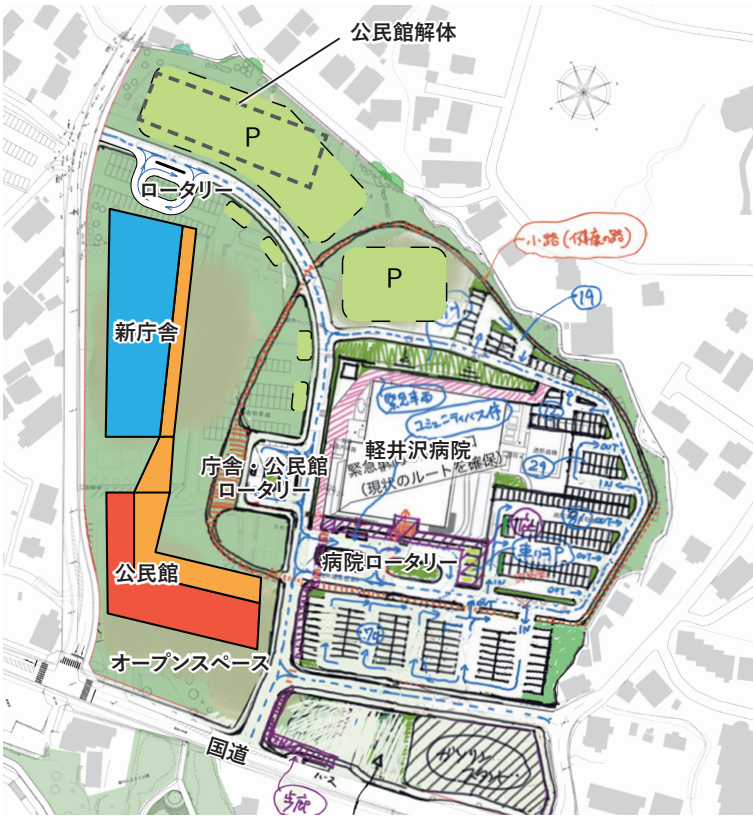
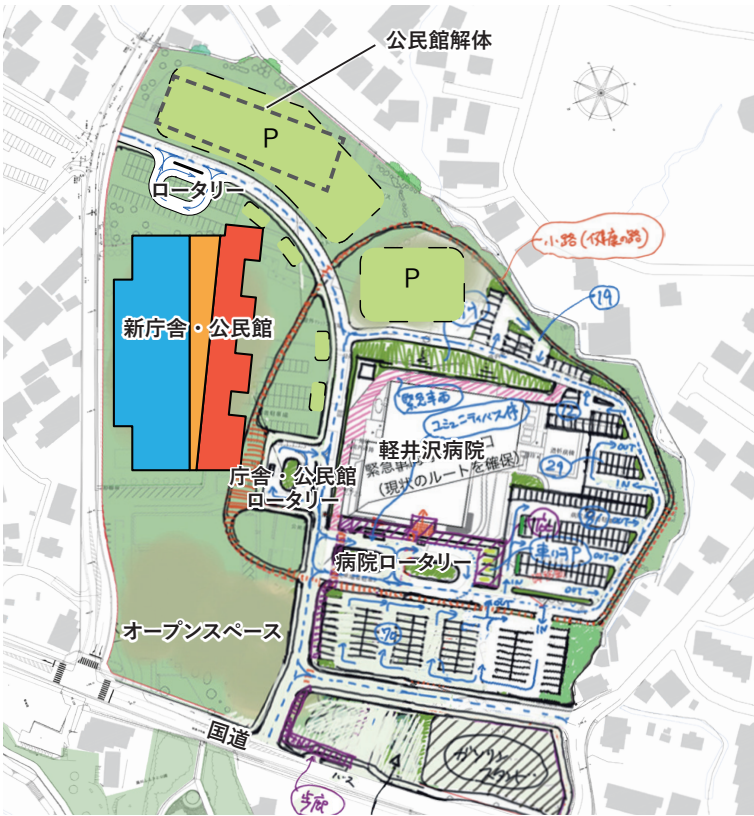
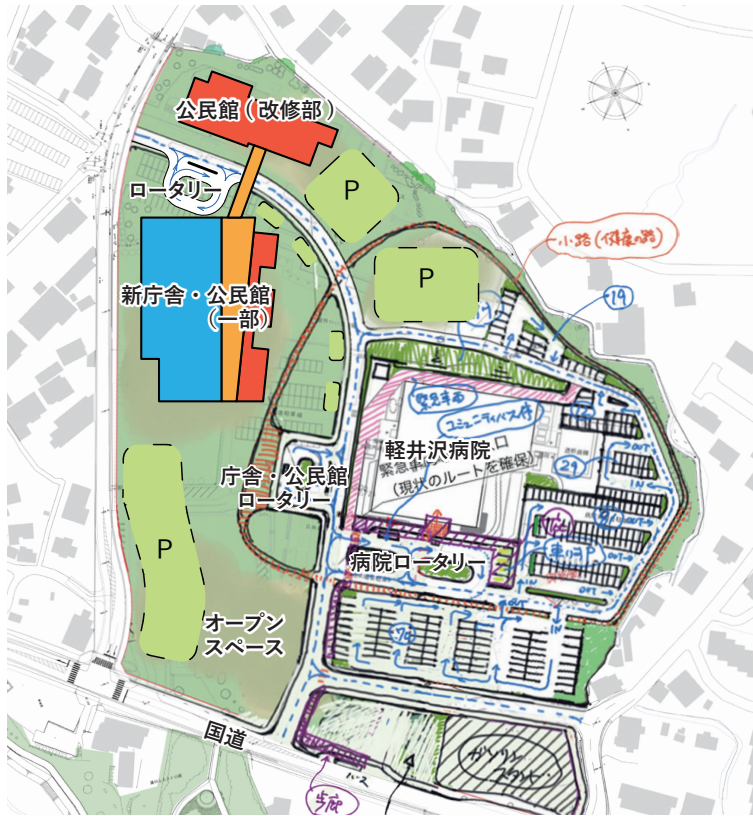


※現段階での条件を元に検討した内容のため、今後、変更する場合があります

凡例
■：庁舎 ■：公民館機能拡充施設 ■：共用部

		A 案	B 案	C 案
配置イメージ				
建物面積		新築面積：11,000 m ² + 公民館解体：2,500 m ²	新築面積：8,500 ～ 10,000 m ² （新庁舎・公民館一体による面積の合理化） + 公民館解体：2,500 m ²	新築面積：6,000 ～ 7,500 m ² （新庁舎・一部の公民館一体による面積の合理化） + 公民館改修：2,500 m ² = 8,500 ～ 10,000 m ²
① 建替え時の影響	○	庁舎、公民館とも使いながらの建替えが可能。ただし、既存庁舎の解体後、公民館の着工となるため、公民館の完成が遅れる	◎ 庁舎、公民館とも使いながらの建替えが可能であり、同時に完成できる	○ 庁舎、公民館とも使いながらの建替えが可能。ただし、既存公民館の改修工事が発生するため、改修中は既存公民館（2,500 m ² 分）が利用できない。一方、新築部公民館機能 1,500 m ² 分は新庁舎と同時に完成するため、その部分については利用できる
② 脱炭素社会への貢献度	△	新築の面積が最も大きく（新庁舎・公民館 11,000 m ² ）、また、既存公民館を解体するため、CO2 排出量が最も多い	△ 新庁舎・公民館 10,000 m ² 全てを新築し、また、既存公民館を解体するため、CO2 排出量が多い。ただし、A 案と比べると新築面積が小さい分、CO2 排出量はやや少ない	◎ 既存公民館 2,500 m ² の構造体分の新築・解体工事を削減できるため、CO2 排出量を抑制できる（約 760t-CO2 削減 ※）
	○	新築の一部に木造を採用することで炭素の固定化が可能	○ A と同じ	○ A と同じ
③ イニシャルコスト指数 （当初の基本設計時を100として面積換算）	△	88	○ 72 ～ 80（建築面積による）	◎ 67 ～ 76（建築面積による）
④ ライフサイクルコスト指数 （A 案を100として算出）	△	100	○ 79 ～ 91（建築面積による）	○ 78 ～ 91（建築面積による）
⑤ 町としての検討の優先度		低	高	高

※ エンボディッドカーボン 約 760t-CO2 削減
＝ 約 86ha の森林の年間 CO2 吸収量
（現計画地の広さ約 24 個分 / 野鳥の森 約 1 個分）
（森林は 36 ～ 40 年生のスギ人工林の場合、1 年間に約 8.8t のCO2を吸収する）